

社会福祉法人塩釜市社会福祉協議会
令和元年度 第2回 高齢者通所介護施設となりの家 運営推進会議
議事録

1. 日 時 令和元年 12 月 10 日（火曜日）
開会 午後 2 時 35 分～ 閉会 午後 3 時 2 分
2. 場 所 特別養護老人ホームこころの樹
3. 出席者 鈴木 さつよ（利用者家族代表）
佐藤 稲子（地域住民の代表者）
石崎 可奈子（市役所職員）
田中 京子（包括支援センター）

高齢者通所介護施設となりの家
武田理恵 所長

社会福祉協議会
遠藤 常務理事 曾根 課長

欠席者 -

1. 開 会

2. あいさつ 遠藤 常務

3. 議 事（要旨）

○ 現況報告

- ・ 男性 5 名、女性 13 名の利用者が通所中。
- ・ 要支援 1 が 1 名、要介護 1 が 6 名、要介護 2 が 3 名、要介護 3 が 4 名、要介護 4 が 3 名、要介護 5 が 1 名となっている。要支援の方は区分変更中で要介護になりそう。要介護 5 の方はレベル低下が顕著。

- ・ 火曜、木曜に空きあり。月曜を希望される方が多い傾向で空きがなく、思うように新規を受け入れられない。
- ・ 冬場になり、入院や入所があって利用者が減少している。各居宅介護支援事業所に声かけをしているところ。
- ・ 週に複数回利用の希望が多く、調整が難しい。
- ・ 今週に見学予定が1名。週4回の利用となる見込み。
- ・ ケアマネジャーの話では、認知症デイは好印象を持たれづらいとのこと。一般デイに比べ、利用料金が高く、家族の理解が得にくいようだ。丁寧な説明をしながら、新規利用獲得に努めたい。
- ・ 行事は、11月ホットケーキづくり、紅葉狩りを行った。記憶を保てない方がほとんど。その時々のお気持ちだけを尊重しながらケアしている。
- ・ 個別対応を重視している。一人ひとりの認知症症状が異なり、日々穏やかに過ごせる方法を模索している。手を上げる方や徘徊する方、いろいろだ。
- ・ 11/21、塩竈市の実地指導があった。新規採用困難により、機能訓練指導員が配置できない状況があった点を指摘された。現在は、ここの樹看護師を兼務させたことで解消している。

○外出行事について

- ・ 12月、地域とのふれあいを目的とし、イオンタウン塩釜で買い物と食事会を計画している。

○地域の方との避難訓練について

- ・ 塩竈市の実地指導時の確認事項で、「日頃から消防団や地域住民と連携を図り、消火・避難訓練に参加してもらえるような体制づくりをしているか？」という項目があった。どのように地域の方と連携を図ればいいのか分からない。この場を借りて助言をいただきたい。認知症の方は指示が通りづらいので、協力が必要である。

(佐藤委員)

となりの家から「どうして欲しい」という希望はあるのか？

(武田所長)

となりの家に認知症の方がいるということを知り、地域の方同士で「あそこに認知症の方がいる。手伝いに行つて」などの声かけをしていただきたい。その程度しか思い浮かばない。一緒に避難訓練などは難しいと思う。

(佐藤委員)

火災時にどこに避難するかは決まっているのか？

(武田所長)

とりあえず一時避難的に外に出る。出火場所によって避難方向も違う。駐車場に出て、その時の状況により避難場所を決定する。地震災害はこころの樹3階か市民活動センターとしている。

(佐藤委員)

その際、「この方をお願いします」となるのか？それができる自信はない。火事は火を見ると身体がすくむ。近所でボヤがあった時、怖かった。「このような協力をお願いしたい」と施設で決めて、町内会長へ話をし、会合で検討してもらうしかない。町内会には20軒ほど入っているが、半数は企業や店舗だ。若い人もいない。年寄りがほとんどで、どこまでできるのかは疑問。

(遠藤常務)

警察署への協力依頼が現実的かもしれない。

(佐藤委員)

その方がいいかもしれない。自分達がやるなら、「こうして欲しい」という依頼があって、初めて判断できるものだ。

(武田所長)

今後の検討課題とする。

(佐藤委員)

火を見ると動けなくなる。地震よりも恐怖である。5～6月に町内会の会議があるので、そこで検討する分には問題ない。

(武田所長)

避難訓練は実施しているが、なかなか利用者に指示が通らない。動かない人もいる。

(佐藤委員)

一日の定員は何名か？

(武田所長)

一日12名だ。火災や津波を想定しての避難訓練を定期的実施しているが、課題も多い。

(遠藤 常務)

地域密着型施設は、町内会等との連携が求められていて、その中で運営推進会議も開催されている。災害時にも密接な連携を図りたいところだ。

(武田 所長)

鈴木委員宅も津波の被害に遭われた。

(鈴木 委員)

その時は、近所の方と3人で第2小学校へ一時避難、その後、娘のマンションに避難。8階に住んでおり、エレベーターが動かなかった。自宅に戻ったが1階が浸水、しばらく2階での生活となった。近所の方も一緒に暮らした。

(武田 所長)

近所同士つながりが深く、素晴らしいと思う。

(佐藤 委員)

第2小学校へは車で避難したのか？

(鈴木 委員)

徒歩だ。90歳近いので、高台に登るのは大変だった。

(佐藤 委員)

避難所が高台にある第2小、杉小に指定されており、避難する気持ちが萎える。この辺りに避難ビルを行政で作ってもらいたい。「避難所まで行けないから自宅にしよう」と判断されれば、犠牲者が増えるだけである。

(鈴木 委員)

近所の方が一旦避難したものの第1波の後に自宅へ戻り、第2波で命を落とした。とにかく第2小まで行くのが大変だった。行った後も寒く、1台あったストーブをある仲間同士で囲んでしまっていた。杉小の方が歩くなら楽かもしれない。

(佐藤 委員)

とにかく命を守ること。特に津波は来襲まで時間がある。家は2m弱の浸水があった。

(石崎 委員)

近所は一階部分が全て浸水した。家は建て直しを余儀なくされた。

(佐藤委員)

自分は比較的最近引っ越してきたので、地域のつながりが分からなかった。震災時にお互いに声を掛け合い、地域のつながりがある地域と感ずることができたし、さらに深い絆ができたと思う。

(鈴木委員)

96歳になる主人が楽しみにとなりの家へ通っている。ありがたく感じている。

(佐藤委員)

寒暖の差が激しいので、健康には留意していただきたい。

(石崎委員)

実地指導により助言があった件、安全を確保しながらの避難の難しさを感じた。地域の方と避難訓練を実施してもらい、その中で、「ここまでできる」が分かるのではないかと思う。万が一に備えていただきたい。

4. 事務連絡 次回は6月(予定)

5. 閉会